

大腸癌研究会プロジェクト  
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1 (日米共同) pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準 (大腸癌治療ガイドライン)」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成  
研究 2 (日英共同) pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究 (Formula One Study)

## 第 10 回会議議事録

2021 年 1 月 20 日

浜松町コンベンションホール 「メインホール A」 + web

### ■出席者 (50 音順、敬称略)

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一
- 委員：秋元直彦、味岡洋一 (代理：近藤修平)、池松弘朗、石黒めぐみ、石原聡一郎 (代理：佐々木和人)、市川一仁 (欠席)、浦岡俊夫、大内彬弘、大沼忍、岡志郎、奥山隆 (欠席)、勝又健次 (欠席)、金光幸秀 (代理：森谷弘乃介)、河内洋 (欠席)、桑井寿雄、小嶋基寛、小林宏寿、小森康司、今野真己、斎藤彰一、齋藤裕輔、齋藤豊、坂本一博、島崎英幸 (欠席)、菅井有 (欠席)、関根茂樹、高松学、田中信治、富樫一智、中井啓介、永田信二 (欠席)、中村好宏 (欠席)、福長洋介、藤盛孝博 (欠席)、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆、山田真善、山野泰穂 (欠席)、吉田直久、梶原由規 (事務局)
- オブザーバー 17 名

### ■会議内容

#### 1. 研究 1 (Nomogram study)

##### (1) 進捗状況について

追跡期間が短期の症例について 2021 年 12 月末までの追加予後調査データを集積 (提出可能な 25 施設中 12 施設から受領済) しており、2022 年 1 月末の締め切りをもってデータを最終確定すること、これ以降のデータベースの変更は行わないことで合意した。また、主解析・副次的解析共に確定データに基づいて検討したもので公表することを決定した。

##### (2) 副次的研究について

現在までに有効登録症例数順に 17 施設から研究案が提案されていることを報告し、募集を継続することを周知した。

今後 6 か月以内に公表を予定している以下の 6 課題の副次的研究結果の概略が報告された。

- 内視鏡治療適応拡大を期待した粘膜下層浸潤距離と臨床病理学的因子別のリンパ節転移割合に関する検討 (静岡がんセンター 今井健一郎先生)
- 発生部位別に着目した T1 大腸癌のリンパ節転移、再発症例の臨床病理学特徴 (国立がん研究センター東病院 南出竜典先生)
- 大腸 T1 癌における内視鏡治療後追加切除までの至適期間に関する検討 (和歌山県立医科大学 中村有貴先生)
- AI を用いた pT1 大腸癌の無再発生存率の検討 (福島医大会津医療センター 富樫一智先生)

- pT1 癌に対する内視鏡治療先行が予後に与える影響に関する検討  
(呉医療センター・中国がんセンター 田丸弓弦先生)
- pT1 大腸癌の根治治療例における肺または肝臓への単独転移の臨床病理学的な危険因子の比較検討 (東北大学 渡辺和宏先生)

## 2. 研究 2 (F1 study)

### (1) 進捗状況について

4施設(癌研有明、がん研究センター中央、がん研究センター東、防衛医大)の病理医による interobserver study の結果が解析完了し、本プロジェクト病理小委員会にて結果を共有したことを報告した。

新規病理因子(簇出、低分化胞巣、最低分化度)の病理アトラスを作成中であり、作成完了後に本プロジェクト病理小委員会において本邦 1000 例分のデジタルスライドデータの評価を開始することを報告した。

## 3. その他

特になし。